

(一社) 神奈川県造園業協会 創立 40 周年記念事業

神奈川県立相模原公園 日本庭園内

修景改修工事 Vol.3 「衆遊の庭」 報告書

平成 26 年 10 月 11 日



Vol.1 (2013 年 4 月 14 日完成)



Vol.2 (2013 年 9 月 29 日完成)



Vol.3 (2014 年 10 月 4 日完成)

主催：一般社団法人神奈川県造園業協会

協会創立 40 周年記念事業準備委員会

設計・施工：作庭塾「庭守」(協会内部団体)

共催：指定管理者(公財)神奈川県公園協会・(株)サカタのタネグループ

工事概要

(1) 作庭塾「庭守」とは

神奈川県で、造園技能を学びたいという有志が集まり、伝統技術の習得と技能の向上を目的として平成19年に発足した若手技能集団。横浜市技能職者育成事業補助金と会費を活動費とする非営利ボランティア団体で、これまでも旧川合玉堂別邸「二松庵」（横浜市金沢区富岡東5-19-22）の景観復元工事（竹垣改修、土橋改修、流れ石組み改修など）に毎年取り組み、完成品を寄贈するなどの社会貢献を行っている。具体的な活動内容については庭守のホームページ（<http://niwamori.aikotoba.jp/index.html>）を参照されたい。

協会会長をはじめ、横浜マイスターの大胡周一郎氏、荒川昭男氏、庭園部会長渡部定男氏、副部長川田秀一氏ほか神奈川県の造園業界を牽引する方々が講師として、30名弱の若手会員を指導し活動している。

(2) これまでの経緯、実績

上記活動の他、横浜農協きた地区営農経済センター植木せり市場をお借りして伝統的庭園技術について学び小庭園を築庭しては、その都度解体してきた。そのため習得した技術を造形物として残せない現状に鑑み、日本庭園を広く鑑賞していただく実践的活動の場について前都市公園課長山中孝文様に相談したところ、相模原公園日本庭園のご提案をいただいた。

これを受けて、厚木土木事務所津久井治水センター小松雅一所長並びに指定管理者神奈川県公園協会相模原公園多賀谷理園長と協議のもと、平成24年10月に活動の場を提供して頂く了承を得て、平成25年4月14日にVol.1：日本庭園左側入口延段（3.5㎡）、9月29日にVol.2：右側入口延段（8㎡）を完成させ公園利用者からも好評を得ている。

(3) 創立40周年記念事業としての位置付け

神奈川県造園業協会は、昭和49年12月に社団法人として創立され平成26年に12月に40周年を迎えるに当たり、創立40周年記念事業として位置づけ平成25年に引き続き相模原公園日本庭園修景工事を施工した。

(4) コンセプトと目的

この庭園は飛石や延段等の上を歩きながら景色を楽しむ回遊式庭園で、公園を訪れた方々に、日本庭園をより身近に親しんで頂けるようにとの願いを込め「**衆遊の庭**」と名付けた。

西側通路と東側通路をつなぐ区域に須弥山石組^{しゅみせん}をメインの景観として組み込み、丹波石と木曾飛石で通路を作り、さらに枯流れ、石橋や休憩用のベンチを設置し、正面には四つ目垣、左右の庭門には袖垣を配置した。

お子さん達が飛石や延段の上を無邪気に走り回ったり、散策に来られた方が石のベンチに腰を下ろし、石組や満開の桜、樹々の緑や紅葉等の四季の移ろいを楽しんでくださることを願っている。

作業日程と内容

全工程:平成 25 年 3 月 3 日(日) ～平成 26 年 10 月 26 日(日)

作業時間:8:30～17:00

2013 年		Vol.1、Vol.2 作業内容	参加人数
3 月 3 日	(日)	下見、打ち合わせ	17 人
4 月 14 日	(日)	Vol.1 延段下地、延段作成、仕上げ、測量	21 人
9 月 15 日	(日)	台風のため現地打ち合わせ後解散	22 人
9 月 22 日	(日)	Vol.2 遣り方、既存ゴロタ洗浄、延段下地掘削・転圧	20 人
9 月 23 日	(日)	Vol.2 延段敷設、仮目地詰め、脇固め	19 人
9 月 29 日	(日)	Vol.2 延段化粧目地仕上げ	14 人
		Vol.1、2 延べ人数	113 人

2014 年		Vol.3 作業内容	参加人数
2 月 23 日	(日)	現地実寸位置出し地割り、お清め、道具準備	20 人
3 月 30 日	(日)	石材事前加工	17 人
4 月 19 日	(土)	既存石解体撤去等、資材搬入、整地	20 人
4 月 20 日	(日)	資材搬入、須弥山石組み、飛石敷設	19 人
5 月 17 日	(土)	須弥山石組み、流れ石橋設置	21 人
5 月 18 日	(日)	丹波大判石貼り、流れ三和土	20 人
6 月 1 日	(日)	小丹波石貼り、流れ下草植え込み	21 人
7 月 6 日	(日)	石貼り目地詰め、ベンチ据え付け、整地	22 人
7 月 27 日	(日)	須弥山葺石、整地	16 人
8 月 23 日	(土)	須弥山葺石、ベンチ延段	17 人
8 月 24 日	(日)	既存垣根撤去、樹木剪定	15 人
9 月 6 日	(土)	竹垣改修 (巻鉄砲垣)	18 人
9 月 14 日	(日)	竹垣改修 (青竹鉄砲垣)	18 人
9 月 27 日	(土)	竹垣改修 (南側四つ目垣)	16 人
9 月 28 日	(日)	仕上げ、片付け	20 人
10 月 4 日	(土)	竹垣改修 (東・西側四つ目垣)	13 人
		Vol.3 延べ人数	293 人

40 周年記念事業延べ参加者：406 人（うち講師 66 人）

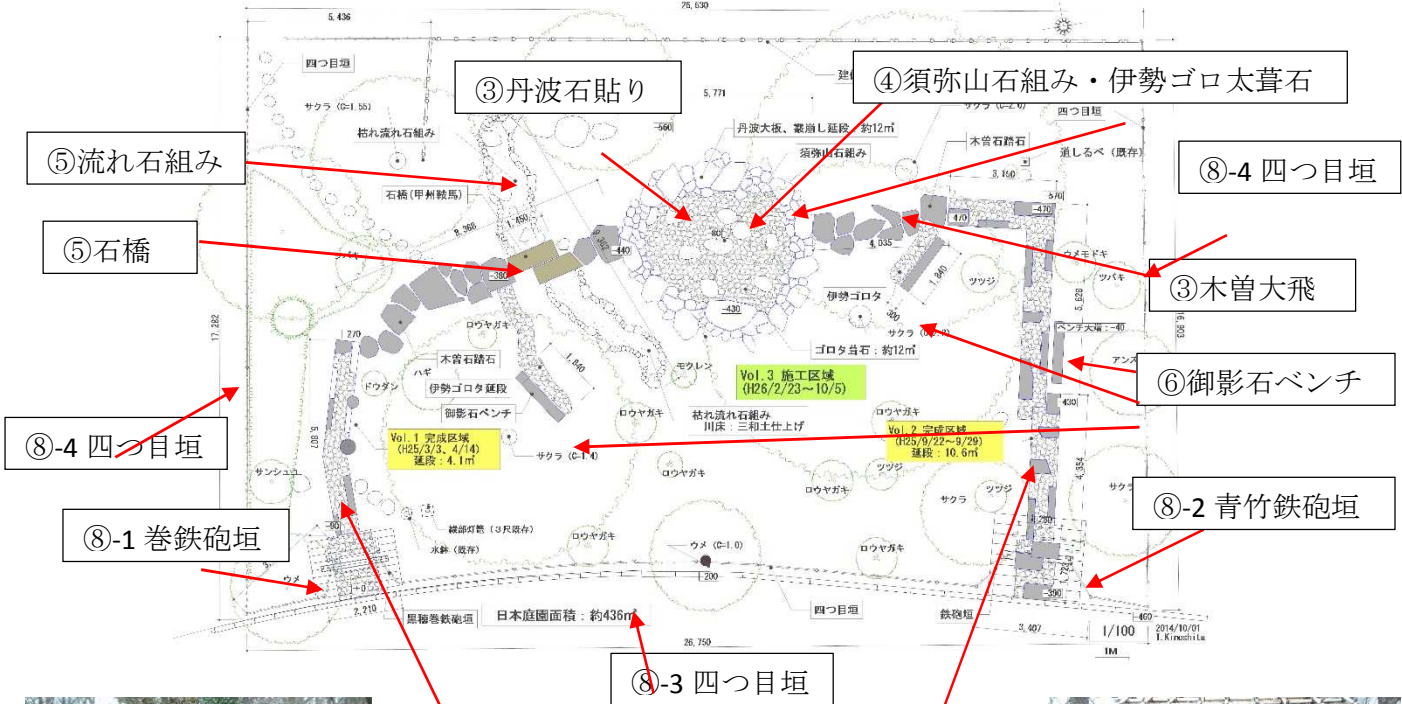


大胡氏 渡部氏 松井氏 荒川氏 川田氏



庭の構成概要

庭守：相模原公園日本庭園 改修工事Vol.1～Vol.3竣工図



①Vol.1 延段



②Vol.2 延段



①Vol.1 延段：西側の庭門から続く既存のゴロ太単用の通路を新たにデザインして御影の切石や石臼を組み込んだ行の延段とした。(平成 25 年 4 月 14 日完成、延べ作業員 21 名)

②Vol.2 延段：東側の庭門から入って直角に庭の中心部に向かう延段。Vol.1 との調和を図り既存のゴロ太に材料を足して作成。目地は手間の掛かる山目地とした。(平成 25 年 9 月 29 日完成、延べ作業員 39 名)

庭の構成各部解説

③ 木曾石大飛～須弥山外周石貼り：須弥山に向かう踏石は、木曾石（大・中）飛石で軽快さを強調すべく景を6分、渡り4分とし、合端を斜行、夫婦石などくずして打つ。

延段（11.5 m²）の材料は丹波の特大板、大板（沢づれ）中板（青たん、土かぶり）を使い、須弥山石組の景観に合わせ、丹波大板を外周に据え付け、渡りには辺の少ない三角、四角や小板などを使わず中板で霰崩しに石張をして、仕上げに黒の山目地を入れた。石材加工の際は丹波特有のかた、へんを生かして最小限の加工を心掛けた。
（担当講師：川田秀一）





④ 須弥山、葺石：須弥山は、仏教の守護神である帝釈天が住む聖なる山、あるいは世界の中心にある高山と考えられています。又、八つの山と八つの海に囲まれ、須弥山を含めて九山八海（くせんはっかい）と称しています。

庭守による須弥山の作庭では、花崗岩の須弥山を中心として、その周りに八石の鳥海山を配し、仏教の理想郷を表現しました。伊勢ゴロ太を敷き詰め海としましたが、これは古代墳墓の葺石（ふきいし）工法を用いました。日本各地に残る須弥山の庭と、趣を異にした九山八海となりました。

石組みはレッカーを使わず、三叉を用いて行いましたが、三叉の扱いに不慣れな塾生達にとっては、貴重な経験になったと思っています。
（担当講師：荒川昭男）



⑤ 石橋と流れ石組み：約3mの甲州鞍馬石を流れのイメージに合わせ二分割、食い違い模様に据え流れに調和させると共に飛び石の作る景色に変化を付け、奥行きを持たせた。と同時に石橋を境に上流と下流に分け、石の組み方にも変化をつけた。

全長約10mの枯れ流れは、既存の枯れ滝口を表していた大石を利用、延長した。平安時代の遣水（やりみず）をイメージし、須弥山が中心的な庭なので大きな石は使わず組み合わせて、延段、飛び石の作る動線に対してクロスするラインを作ることにより庭全体に変化と柔らかさを持たせた。また、川床はモルタルを使わず、赤土と石灰等を使って古来の土間を作る工法の三和土（たたき）とした。石は主に関西系（吉野石、守山石等）の山石と秩父系の青石。
(担当講師：渡部定男)

